

教育情報 No.27

Educational information

02. Playing and Challenging

考える、経験する機会を奪わない

コミュニケーション

日本航空株式会社 客室乗務員／

JALふるさとアンバサダー

フィリップス千咲

04. 「一艇ありて一人なし」

組織がコミュニケーションを創る

肝付町教育委員会

教育長 木村 政文

06. コミュニケーションは、学べます

株式会社ウゴカス代表

コピーライター 佐々木 圭一

08. コミュニケーション・スキルの

向上を願って

～教育は存在への激励～

岩手県盛岡市立仙北中学校

前校長 小野寺 哲男

日本航空株式会社 客室乗務員／
JALふるさとアンバサダー

フィリップス千咲さん

特集

コミュニケーション・ スキルを身につける

日文のWebサイト

日文 🔍



※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されています。



心が動く、その先へ。

日本文教出版



日本航空株式会社 客室乗務員/JAL ふるさとアンバサダー フィリップス千咲さん

コミュニケーション・エピソード

小学校時代の校長先生は俳句が趣味で、校長室の前にはわら半紙の記入用紙と提出箱がありました。俳句を詠んで提出すると、「まる」とともに一言コメントがもらえました。花まるがもらえると昼休みのときに校内放送で呼ばれ、先生直筆の文字と絵で色紙をプレゼントしてもらえました。褒められるのがうれしくて道端の葉や雲などの季節や周囲の環境に興味をもつようになり、表現の世界に興味をいただくようになりました。



高校時代の校長先生はいつも構内をブラブラと散歩をしていて、生徒たちを取り巻きに楽しそうにおしゃべりをしていました。今思えば多忙の極みだったと思いますが、敢えて暇なフリをすることでいつでも生徒の相談相手になれる役割を担ってくれていたのだと思います。いただいた色紙や

名刺、言葉は今でも大切な宝物です。

JAL ふるさとアンバサダーへ

入社を期に埼玉から東京へ移住。結婚後は東京から広島に移住し、母になっても、東京への遠距離通勤をしながら乗務を続けてきました。家族をはじめ、地域のたくさんの皆さんに支えられて今の私があります。

2020（令和2）年、全国各地域の活性化をきめ細やかに応援するため、現役客室乗務員によって構成される「JAL ふるさと応援隊」の社内公募に応募。47都道府県ごとに選ばれた総勢1,000名とともに、私は広島県担当として乗務をしながら活動を始めました。そして、自身の故郷やゆかりのある地域に移住し地域の活性化のために働きたいという想いをもった現役客室乗務員で構成される「JAL ふるさとアンバサダー」の社内公募にも応募。2022年4月から、全国17拠点20名の中の一人として広島で2年間、誘客に向けた観

光地のPR、観光プロダクト開発や地域産品開発などに取り組みました。

JAL ふるさとアンバサダーの仕事は営業職です。学生のアルバイトでも経験したことのない未知の世界への挑戦でした。

まず苦労したことはゴール設定の考え方でした。一番長い路線のフライトでも14時間ほどです。14時間後には結果が出る直接コミュニケーションの世界で生きてきたこともあり、地域営業においても即時的に結果を出すことが一番大切だと気負っていました。着任1年目の上司からは「焦らなくていい。利益や結果のことはいいから、まずは自分が『これだけは絶対取り組んでみたい』と思えるものをとことん探して、一つだけ見つけてごらん」と言われ、気持ちがとても楽になりました。様々な場所に出かけ地元の方と語り、名所を巡りました。日本三大銘醸地広島・西条酒蔵群のダイナミックで繊細な日本酒文化を通じて、原爆ドームや宮島だけではない広島の魅力を国内外の皆さんに知っていただきたいと思い至り、日本酒文化に触れる体験型ツアーを地元の皆さんと企画販売することができました。



また、優先順位の考え方についても苦労しました。着任2年目の上司には「航空会社としての大義は？捨てる勇気もときに大切だよ」と言われ、ハッとしました。企画書や提案書など、つつい盛り込み過ぎて手段が目的化してしまっていたことに気づかされました。迷ったら大義に戻る。シンプルに考える。「何をするか」と同じくらい「何をしないか」も大切。営業の先輩から教えていただいた考え方は、客室乗務員の仕事にも活かされています。

営業という異業種に飛び込み、夢中で奮闘した

2年でした。産休・育休中に家庭教育支援活動に携わった経験があり、お世話になった地域へ少しでも恩返し、恩送りをしたいという想いがいつも心のお守りになってくれました。

コミュニケーションでの苦労

一番の苦労といえばイギリス人の主人とのコミュニケーションでしょうか(苦笑)。衝撃的だったことは「言葉と行動にしないと想いは伝わらないよ」と叱られたことです。でも世界には、言葉と行動にしなければ真意が伝わらない人々もいます。そこから、自分の想いや考えに興味をもつこと、自分の想いや考えを言語化すること、語彙を増やすこと、対話のタイミングを計ること、相手が理解できる言葉を選ぶこと、目的を先に伝えること、端的にまとめること、相手が理解しているかこまめに確認すること、即時的な理解を期待せず待つこと、言葉と行動を一致させることなどを意識できるようになりました。

目指すもの

人材育成においては、身近な大人が粘り強く私の成長可能性を信じてくださったように、私も後輩の無限の可能性を信じ、考える機会や経験する機会を奪うことのない双方向のコミュニケーションを目指していきたいです。

16年の学生生活を通じて出会えた先生方がそうであったように、いくつになっても自ら率先垂範して楽しむ存在、相手が気づいていない相手の魅力や強みを言葉にし、相手自身以上に認めてくれる存在、話しかけやすい存在、相手に興味をもち心から話を聴いてくれる存在に、私も少しでも成長していけたらうれしいです。

フィリップス千咲

1983（昭和58）年、愛知県生まれ。2007年新卒入社。国際線ファーストクラスを中心に国内線、国際線乗務。2022年度から2年間、全国17拠点20名の現役客室乗務員で構成される「JAL ふるさとアンバサダー」の一人として、広島地域の誘客に向けた観光地のPRや観光プロダクト開発に取り組んだ。二児の母。



撮影：吉村もと

「一艇ありて一人なし」 組織がコミュニケーションを創る

肝付町教育委員会
教育長 木村 政文

一艇ありて一人なし

ローイング（ボート）競技を象徴する言葉に「一艇ありて一人なし」があります。どんなに苦しくても動作を一つにすること、心を一つに丸となること、チームとして行動する姿勢を象徴する言葉です。この言葉は、これまで教育に関わってきた私の哲学とも言えます。

学校の現状

教職員は「学年横並び主義」「同調圧力に弱い」「指示待ち」「会議やトラブル対応以外でほとんど接点がない」「対話はおろか雑談する時間すらない」「対話の重要性を実感したことがない」がほとんどであり、管理職は「クレームやトラブル発生を恐れて保守的な姿勢になりがち」「他者に悩みや弱みを見せられず、対話以前に孤独な立場」ではないでしょうか。

同僚性を育む職場

仕事をする中で、お互いに助け合って高め合っていく協働的な関係性が同僚性であると言われています。学校には若手やベテラン、中堅といった教職員がいますが、抱えている悩みや不安は異なります。私が教員になりたての時代（昭和）の職員室には、何げない出来事やクラスの様子を語り合う姿があり、対話（会話・雑談）を通して、知らず知らずのうちに互いの信頼関係が構築されていました。また、日本の学校の強みとされていた研

究授業など教師の研鑽の時間も十分に確保され、授業を見合って、それぞれの知識や経験を行き来させながら、情報の交換をして互いに授業力を高め合う姿も学校のいたるところで見られました。

学校現場のコミュニケーション不足の課題（原因は教職員？）

私なりに日頃感じている学校現場の教職員の課題は次のとおりです。これらが、教職員同士、子どもとのコミュニケーションがうまくいかない原因かと思います。

- 自分の強みや得意に気づかなかつたり、自信がもてなかつたりすることによる自己肯定感の低さ
- 問題があつたり、わからなかつたりしたら、組織で一緒に考え、助け合おうとする「お互い様、お蔭様」の組織風土
- 物事の本質の「なぜ（WHY）」を考える経験が乏しいことから、組織としての新しい発想による企画の創出

コミュニケーションを図るためには、 まずは高信頼組織を創る

学術的な組織研究では、危険性が高い事業（化学プラント、病院等）にも関わらず、重大事故を未然に防ぐことに成功している組織を「高信頼性組織」と呼びます。教育においても、学校組織を高信頼性組織にするために前任の大熊町教育委員会では次のような取り組みを行いました。

学習する学校 スクールリーダー・教員養成プログラム 全体像

	テーマ	概要	備考(学習する学校)
1	多様性・自己理解・生徒理解	MBTI、ストレングスファインダー、マルチプルインテリジェンス等のツールを活用し、人間の多様性を捉える力を磨く。	セルフマスタリー
2	教育理念・教育方針の自分ごと化(共有ビジョン)	自己の動機の源を知り、教育理念・教育方針を実現するために自己のクリエイティブテンション(内発的動機づけ)を活かす方法を学ぶ。ヒエラルキーが求める主体性と、(管理者のいない)ディール組織が求める主体性の違いを理解し、育む生徒エージェンシーの姿を理解する。	ビジョン共有 セルフマスタリー
3	学習力(メタ認知・リフレクション・対話)の基礎	自己の感情、思考、価値観(ものの見方)を俯瞰するリフレクション力を磨く。	メンタルモデル
4	ミネルバ大学探究プログラム(1)	脳神経科学に基づいた「学び方を学ぶ」プログラムを体験し、PBLや探究学習のベースとなる考え方を理解する。	探究学習
5	ミネルバ大学探究プログラム(2)	「複雑性のマネジメント」を学ぶプログラムを体験する。システム思考、行動科学、EQ チームダイナミクスなどがその要素。	探究学習
6	対話・対立・共創する力	対立を話し合いで合意形成する力を磨く。多様な意見を活かし、新たなアイデアを創造する力を磨く。	対話、チーム学習
7	経験から学ぶ力	経験から学ぶリフレクション力を磨き、OECD 学びの羅針盤 2030 に紹介されている AAR モデルの実践方法を学ぶ。	リフレクション、 AAR モデル
8	アンラーン・自己変容	前例を踏襲しない問題解決に不可欠な、自らの成功体験を手放し、新しいものの見方をもつために必要なアンラーンのスキルを磨く。教育に求められる変化を、自己変容に結びつける。	メンタルモデル
9	システム思考	複雑な問題を解決するために必要なシステム思考・冰山モデルの活用方法を学ぶ。	システム思考
10	教員のリーダーシップ(1~9の学びの総括)	自己らしさを活かした教員の姿、リーダーシップの在り方を見出す。教師と生徒が共同エージェンシーとしてともに学ぶ学習する学校を目指す。	リーダーシップ/ 共同エージェンシー

- 最上位目標（教育目標）に向けて、教職員の試行錯誤、創意工夫を許容する（校長の謙虚なリーダーシップ）
- 同僚の同調圧力がなく、教職員がリスクを取ることを安全に感じ、弱い部分をさらけ出させる（心理的安全性）

次に、考える教員集団（学習する学校）を創る

考える教員集団育成のための「おおくま method」（民間の教員養成プログラムを活用した町教育委員会独自の研修）

教師自身が学習し、成長するノウハウを学ぶことで、教員の自己肯定感が高まり、子ども・教職員一人ひとりをかけがえのない存在として改めてとらえることができました。コミュニケーションの基本は、教師自身の自己

肯定感、そして互いを尊重し支え合うことです。その基盤は学校という組織にあると考えています。

まさに、「一艇ありて一人なし」です。

著者プロフィール



■木村 政文（きむら まさふみ）
鹿兒島県肝付町教育長。前福島県大熊町教育長。前経済産業省産業構造審議会臨時委員。前教育イノベーション小委員会委員。県教委教育事務所長、公立学校長として、温故創新の理念のもと、多様性と混在を生かした被災地の学校づくり、教育 DX、教育復興等に取り組み、現在に至る。趣味は、ローイング（ボート）競技。

コミュニケーションは、学べます

株式会社ウゴカス代表
コピーライター
佐々木 圭一

なぜアメリカ人より、日本人は コミュニケーションが下手なのか？

あなたは「コミュニケーションは、学ぶことができます」と言われたら、どう思いますか？

一般的には、コミュニケーションは学ぶことはできないと言われていました。「コミュニケーションは生きていく中で、失敗したり成功したりする中で磨かれていくもの」「生まれ育った環境による」そう思われています。

ですが、実は学ぶことができます。アメリカでは、小学校のころからコミュニケーションの授業が義務教育の一環として組み込まれています。考え方が違う相手に、どうやって伝えるかを学んでいます。アメリカは、宗教も含めて全く違う考え方の人たちが同じクラスにいるから、違う考え方の人とどうコミュニケーションをすればよいか、環境として必要だったのかもしれません。それがゆえ、アメリカ人は大人になったときに、コミュニケーション能力が高いのです。

一方で日本は、相手のことを思いやる文化から、言われなくても「相手がこうしてほしいだろうな」と想像して行動してきました。なので、言わないでも相手が勝手に想像してくれていたから、伝えなくてOKだったのです。でもそれは昔の話。インターネットの普及で、あまりにも情報がありすぎる時代になりました。世の中の人や商品が、どんどん主張してきます。ネット上では海外からだっ

ても言わないでいると、どんなに優れていたとしても理解してもらえません。

インターネットが普及する前までは、日本は元気でした。モノづくりが得意な日本としては、商品の性能が全てを語ってくれるから、よい商品をつくりさえすれば、みんなが買ってくれたのです。ですが、インターネットが当たり前になった今日、よい商品をつくるだけだと商品が売れない時代になりました。きちんと伝えないと売れないのです。

「コミュニケーション学」を義務教育に

世の中の常識が、この20年で劇的に変化しました。一方で教育はその劇的な変化についていけていません。教育を経て社会に出るとき、人事部が新人に求めるスキルの1番は、「コミュニケーション能力」です。でも、1番求められていることを、日本では学んでいないのです。

社会に出るときだけではありません。現在、学校の現場でも、子どもたちのトラブル、保護者と学校のトラブルが起っています。

「友だちが話しても、返事をしてくれない」といったような子ども同士のトラブル。「親が、先生の方針と違うことをする」といった保護者と先生のトラブル。そのトラブルの9割はコミュニケーションが原因です。コミュニケーションで解決することができます。



▲ボランティアでの「伝え方が9割」の授業の様子

保護者トラブルで何と言う？

2年生の保護者、加藤さん。子ども同士がケンカをしたと聞いて、先生に電話をしてきました。相手が悪いと決めつけ、「今すぐ謝ってほしい!」と言っています。でも先生としては、子どもたちで解決してほしいと思っているとき、何と伝えればよいのでしょうか？

たとえば、
× 「子ども同士のケンカは、見守ってください」

こう言ったとしても、保護者の加藤さんは納得しないでしょう。学校は何もしてくれない、先生は無能だ、と友だちに拡散されてしまうかもしれません。

一方で、

○ 「ケンカは、子どもたちが自分で解決方法を学ぶチャンスです。辛そうなカナちゃんを助きたい気持ちは私も同じです。でも、本人のために、今は一緒に見守りましょう。事態が悪化しそうなときは、私が対応しますので」

と言ったらどうでしょう。こちらのほうが、納得してくれる可能性が高まるでしょう。こ

れは、伝え方の技術「チームワーク化」を使っています。人は一緒にと言われると、その話に乗りやすくなるのです。

この「チームワーク化」という技術を知っているかどうかで、トラブルは減らすことができます。先生だけでなく、子どもたちも知っておいたら、社会に出たときにピ

ンチを救ってくれるコトバになるかもしれません。

私の夢は、コミュニケーションを義務教育に入れ、コミュニケーションの教科書を作ることです。コミュニケーションはセンスではなく、あきらかに学ぶことができるのです。共感される先生方がいらっしゃったら、ぜひお手伝いをさせていただければと思います。

著者プロフィール



佐々木 圭一（ささき けいいち）
「伝え方が9割」著者／コピーライター／株式会社ウゴカス代表
『伝え方が9割』は日本で100万部、世界でも100万部を達成した、日本のビジネス書史上3冊目となる。「情熱大陸」出演。小学生から大学生まで、伝え方の授業をボランティアで行っている。お申し込みは「ウゴカス」で検索。

コミュニケーション・スキルの向上を願って

～教育は存在への激励～

岩手県盛岡市立仙北中学校 前校長 小野寺 哲男

学校生活から感じる課題

一般的に中学生段階においてコミュニケーション・スキルの不足から生じる生徒間トラブルは枚挙にいとまがありません。この課題を解決するための最適解を探すことは容易ではありません。

教育は存在への激励である

生徒の成長を願うとき、「何かができるようになること」を強調しがちです。しかし、本校では「中学生は、この世に生まれてきたこと自体が素晴らしいことであり、生きていくことです。すでに世の中に貢献している」という考えを大切にしています。それが「教育は存在への激励である」という言葉です。この概念は、生徒も教師も自分と同様、相手を尊重し、相手の考え等を受け止め、聴くことや考えること、自分の言葉で表現することを目指しています。

コミュニケーション・スキルは実際のコミュニケーションを通じて獲得する

コミュニケーション・スキルを身につけさせるために、国語の授業を軸として総合的な学習の時間や朝活動で次のような指導を続けています。

- ①国語：資料の読み方、発表の仕方、レポートの書き方、話し合いの仕方の学習、実際の話し合い、個人新聞作成、コンクール参加。
- ②総合：話す・聞く力の向上をねらいとした「仙北中M-1グランプリ」*、聞き手に対しどのように言うかにこだわり、共感を呼ぶ工夫への意識強化。
- ③朝活動：③-1スクラップ作成：新聞から必要な情報収集、要旨作成、交流等。
③-2視写：思考するための知識獲得、話し方・書き方の獲得、読んでもらえる文字で視写。
③-3読書：多様なものの見方を学ぶ、必要な知識を得る、自分の考えをもつ。

上記以外にも教育活動

全体を通した言語活動の充実は重要です。授業における個別最適な学び及び協働的な学びを繰り返すことでコミュニケー



▲新聞スクラップ

ション・スキルは向上します。また、生徒間のトラブルは、生徒が「失敗により成長できる機会」ととらえ、ふり返りシートに記入させることで自他の気持ちに目を向けさせ、言葉で表現させることで思考力・判断力・表現力等を鍛えることができるかとらえています。

結びに

今年の全校朝会で伝えた、私自身が新聞から学んだ素敵な言葉です。「何気ない風景の中に自然の本当の美しさがあるように、あなたの普段使う言葉が最高の美しい言葉でありますように。何を話せるかが知性、何を言わないかが品性、どのように伝えるかが人間性。」…そういう者に私はなりたい。

*生徒自らペアを組み、漫才でグランプリを競う。話す、聞くはもちろん、話さない大切さも学ぶ。一人ひとりの個性のよさに気づかせる。

著者プロフィール



小野寺 哲男 (おの でら てつお)

1988(昭和63)年岩手県の中学校英語科教員として採用。水沢市、種市町、盛岡市で教諭。2004(平成16)年前沢町教委、2005年県教委指導主事。2013年盛岡市立厨川中副校長、2015年県教委学力・復興教育課長、2017年陸前高田市立第一中学校長、2019年県教委義務教育課長、2021(令和3)年盛岡市立黒石野中学校長、2023年より現職。2025年3月退職。

アンケートのお願い

右のQRコードより回答いただいた方には、ご希望の機関誌の最新号をお届けします。



教育情報 No.27、

日文 教授用資料
令和7年(2025年)4月30日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33763

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690